

目指す学校像	子どものやる気を育てる日進北小・授業が楽しい日進北小
重点目標	1 「学びの探究化」に向けた授業の推進、「日進北小版STEAMS TIME」の推進 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・教育相談体制と学校行事の充実 3 コミュニティ・スクールの成長、進化に向けた理念、方策の共有と行動 4 一人ひとりが力を発揮し、「子どものやる気を育てる・授業が楽しい」学校をつくる教職員研修の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価		年度評価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 令和7年2月14日
1	<p>【現状】</p> <p>○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに、概ね市の平均程度。全国や県の平均を上回った。 【国語】内容で「言葉の特徴や使い方に関する事項」がわずかに平均を下回っている。観点は「話すこと・聞くこと」が平均よりやや低く、「書くこと」や「読むこと」に関しては僅かだが高い傾向がある。 【算数】領域で「数と計算」・「データの活用」が平均より高く、「図形」・「変化と関係」がやや低い。 ○市の学習状況調査では、学年ごとのばらつきはあるものの、国語・社会・算数・理科ともに市の平均程度の結果となった。また、学習意欲に関して理科が高く、国語・算数が低めという結果であった。</p> <p>【課題】</p> <p>○国語「話すこと・聞くこと」や算数「図形」・「変化と関係」の重点的な指導が必要である。 ○特に国語・算数において、主体的に学習する態度を育成し、学習が好きになる授業実践が必要である。</p>	<p>「学びの探究化」と、学びのポイント「じ・し・や・く」の自走化による、学ぶ楽しさを実感できるような授業改善</p> <p>「個別最適な学び」の実現に向けた情報端末活用、授業改善</p>	<p>①昨年度の課題を生かして「日進北小版STEAMS TIME」および「探究的な学び」を積極的に実施し、一人ひとりの児童が自身の課題をもって学習に取り組む態度の育成を図る。 ②教員が児童の学びに伴走しながら、個々の課題の解決を実現する。 ③児童が対話を通して、学びのポイント「じ・し・や・く」のサイクルを生かした学習を進めることに重点を置いた授業を行う。</p>	<p>①学期末の児童アンケートにおいて「自分の課題をもって、学習に取り組むことができた」と回答する児童の割合が75%となったか。 ②③学校評価アンケートで、教員の「各教科の授業では児童と共に探究的な学びを実践することができた」「学びのポイント「じ・し・や・く」を意識した授業を実践することができた」の割合がそれぞれ80%になったか。</p>	<p>①「自分で考えて、自分なりの答えを出すことがたくさんあった」の設問に、全校の90.0%の児童が、肯定的な回答をしている。特に6学年の児童の数値が高く96.4%の児童が肯定的に回答した。学びの探究化が着実に浸透してきた表れと考える。 ②③「探究的な学び」に関しては85.7%の教員が実践していると回答。(実際は全ての学級で実施した。) またすべての学級において「じ・し・や・く」を意識した授業が行われ、指導力も向上している。</p>	A	<p>①自分の課題を見出して学習に取り組んだり、自分なりの答えを考え出したりする態度は、高学年を中心に定着してきている。より効果的な「探究的な学び」の実現のため、系統的な指導を継続していく。 ②③教員自身が「探究的な学び」および「じ・し・や・く」についての理解を深めていくことで、指導力の向上を図っていく。</p>	<p>・自分たちで進め方を考える学習スタイルは、とても共感できると感じる。これからもぜひ推進していただきたい。 ・先生が積極的に子ども達の成果を認めていることで、子どもの自信につながっている。 ・個々の子どもの意欲が高まれば、学力向上につながるだろうと期待している。 ・肯定的な回答をした90%以外の子への手立てを、ぜひ丁寧に行ってもらいたい。 ・ICT機器を活用した個別学習では、取り組んだ内容の差が出てしまうのではないかと懸念している。紙に書いて学習する方法も残してほしい。</p>
2	<p>【現状】</p> <p>○質問紙調査では「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が市の平均を下回っている学年が複数ある。 ○社会の不透明感、多様化する価値観、生活の変化等が児童の心身に与える影響が大きく、不登校、登校しぶりといった行動に表れている。 ○安心安全な教育環境にするため、老朽化が進んでいる施設設備の修繕が必要である。</p> <p>【課題】</p> <p>○不登校、登校しぶりの児童数は減少している。全市で始まった「Sola る一む」の整備を進め、引き続き教育相談体制の充実を注いでいく。 ○安全点検等で挙げられる危険箇所については、緊急度おおよび児童の安全を鑑みて、迅速に対応していく。また、トイレ修繕や校庭の排水など大規模修繕に係るものについても、継続して修繕依頼を実施していく。</p>	<p>不登校傾向の児童のための「Sola る一む」の整備・充実</p> <p>教師と児童がともに取り組む安全安心な学習環境づくり</p>	<p>①学習室の整備および教職員等の配置を積極的に進め、様々なニーズをもった児童の学校での居場所とする。 ②SC、SSWを有効に活用し、本人や保護者の心のケアを図っていく。 ③教育相談主任を中心に、児童一人ひとりの心に寄り添う相談体制を構築するとともに、必要に応じてケース会議を開き、担当が抱えこまずにチームで対応する組織を整える。</p>	<p>①「Sola る一む」を整備し、不登校児童が安心して学習に取り組める空間とすることができたか。 ②学校評価アンケートの心のケアに関する項目で、保護者および職員の肯定的評価が90%となったか。 ③ケース会議について、学年や学級からの要請に応じて、適切に実施することができたか。</p>	<p>①年度当初より「Sola る一む」の充実や啓発を行い、教室に行けない児童等に対して有効に活用できている。 ②教室に入りづらいと感じている児童への学校の対応について、保護者からの肯定評価が80.0%であった。また職員の肯定評価は94.3%であった。 ③必要に応じてケース会議を実施した。関係職員全体で状況を共有でき、早期対応をすることができた。</p>	A	<p>①部屋の運営に関しては、年度当初の構想通りに実現できた。児童の居場所としての学習室の目的は果たしている。今後はより計画的に学習に取り組めるよう、工夫改善が必要。 ②保護者の理解が低いので、部屋の存在について広く周知に努める。 ③引き続き、より具体的な手立てを立てられるよう会議の在り方を改善し、不登校の解消に努めたい。</p>	<p>・ボランティアの協力を得られていることは評価するが、やはり専門的な人員の配置を早急に進めてもらいたい。 ・Sola る一むの充実が学校の努力の表れであると思う。さらに来やすい、利用しやすい部屋にしてほしい。 ・先生方子どもへの接し方だけでなく、子ども同士の関係にも優しさを感じる。 ・倒木は、突発的な事故であり、早急に対応できたことが素晴らしい。けが人もなく、正しい対応であったので、保護者評価は、あまり気にせず参考程度であり。</p>
3	<p>【現状】</p> <p>○学校運営協議会を中心に、地域全体で、未来を担う子どもたちの成長を支えていく事を確認し、目指す児童像や人間像に近付くための方策を考えている。</p> <p>【課題】</p> <p>○地域・家庭・学校が一体となって、目指す児童像を実現するための体制づくりを継続していく。 ○学校運営協議会・SSNの企画づくりを如何に充実させ発展させていくか。 ○コミュニティ・スクールについての情報を、進んで家庭や地域に発信し、地域の担い手となる子どもの育成に、自分事として関わってもらうことが重要。</p>	<p>地域とともにある学校として連携・協働する事業の策定と行動</p> <p>コミュニティ・スクールの児童の参加、地域や保護者への周知</p>	<p>①地域の方を学校に招いたり訪ねたりして、授業に参加していただく。 ②Sola る一むの運営に、地域の方々にもボランティアとして参加してもらい、支援していただく。 ③学校運営協議会、SSNが企画運営する取組を1つ以上実現する。</p>	<p>①地域の方が参加する授業を3回以上実施できたか。 ②不登校児童等のためのSola る一む運営に関わってもらうことができたか。 ③学校運営協議会、SSNが企画運営する取組を1つ以上実現することができたか。</p>	<p>①3年社会科の地域学習で3回授業に参加いただいた。(来校2回、訪問1回) ②保護者ボランティアを募り、毎曜日対応できる人員が集まった。(現在8名が登録) ③防災教室を企画、2月に開催予定である。新しい視点で参加してもらえるよう、昨年度から内容を更新した。</p>	A	<p>①今後も引き続き、地域人材を生かした学習を増やせるよう、教育課程を見直していく。 ②募集は今後も継続する。 ③地域の諸団体から積極的に活動に参加していただき、SSNを充実させることができた。</p>	<p>・地域の人材が学校の授業に参加できたことは意味がある。公民館の活用等も含めてさらなる人材の活用も検討していただきたい。 ・子育てや家庭教育など、情報を共有したいと思っている方も多いのではないかと懸念している。 ・「防災教室」は今年で3回目、軌道に乗ってきた感はあるので、さらなる規模の拡大を図ってほしい。</p>
4	<p>【現状】</p> <p>○ICT機器の効果的な活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ね、ほとんどの授業で活用できるようになった。 ○高学年での教科担任制の実施により、担当する教科について、学年の連携を強め、より深い教材研究を行うことができています。</p> <p>【課題】</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」および「探究的な学び」の授業実践を通して研修を深め、学校全体の指導力を向上させていく。</p>	<p>授業実践および相互参観による授業改善、学校全体の指導力の向上</p>	<p>①全ての教員が「探究的な学び」への理解を深め、「探究的な学び」を実践した授業を行い、参観し合う。 ②同学年で授業を作り上げていく研修によって、新しいスタイルの授業にチームで挑戦し、共に探究していく意欲の向上を図る。 ③WPに授業内容を掲載したり、学校公開等で実践したりして、保護者・地域の方々にも「探究的な学び」についての理解を深めてもらう。</p>	<p>①全ての教員が「探究的な学び」を実現するための授業公開を年間1回以上実践し、見合うことができたか。 ②学校評価アンケートで教材研究の協働体制ができていると肯定的評価をする教員が95%であったか。 ③「探究的な学び」について、学校評価アンケートで保護者の「授業改善をしている」とする肯定的評価が85%になったか。</p>	<p>①学年ごとに研究を進め、すべての教員が「探究的な学び」の授業を実施した。 ②「職員間で授業を見合い、授業について語り合うことができた」の項目で、88.5%の教員から肯定的な回答を得た。 ③学校だけでなく、職員研修の内容や結果について周知を図った。学校公開等で探究的な学びを取り入れた授業を実施し、「学校では、探究的な学びを取り入れた授業を行っている」の項目では、81.2%の保護者から肯定的な回答を得た。</p>	B	<p>①②すべての教員が研究授業を実施して見合うことで、互いの指導力を向上させた。また、協働研修体制を確立することができた。 ③家庭や地域へ公開した効果もあり、保護者の「探究的な学び」への理解を得ることができた。引き続き、児童が主体的協働的に学ぶ意欲を高め、自分自身で学びのサイクルを作り出す力を育成できるように、研究を続けていく。</p>	<p>・先生方の日頃の努力には頭が下がる。反面、負担が大きくなっているのではないかと心配でもある。 ・子どもと向き合う時間を大切にしているのがよい。今後も継続をお願いしたい。 ・自校だけでなく他校の取組を学ぶ機会が増えると、指導が充実していくのではないかと期待している。</p>